

箱根町景観施策推進会議第 10 回会議 次第

日時：平成 23 年 9 月 22 日（木） 14：30 分から 16：30 まで 場所：分庁舎 4 階 第 6 会議室
--

1 あいさつ

2 議題

公共サインガイドラインの素案について

観光課が作成するハイキングコース誘導看板等について

その他

議題 1 公共サインガイドラインの素案について

箱根町公共サインガイドライン（素案）...資料 1

公共サインの掲示例...資料 2

日 時	平成 23 年 9 月 22 日(木) 午後 2 時 30 分から 4 時 30 分まで	場 所	分庁舎 4 階 第 6 会議室
出席者	会議メンバー：6 名(2 名欠席) 都市整備課：竹村主事、勝又		
議題、会議概要等			
1 公共サインガイドラインの素案について			
<p>これまでの会議の結果を踏まえ、事務局が作成した「箱根町公共サインガイドライン(素案)」に基づき、事務局がひととおり説明した後に協議したものの。</p> <p><協議結果></p> <p>素案に対し、修正すべき事項や要検討事項など様々な意見があり、次回会議までに修正したものを再度メンバーへ示すこととした。</p> <p>注意看板についての方向性について、各課に会議結果を送付する際に意見照会することとなった。</p>			
2 観光課が作成するハイキングコース誘導看板等について			
<p>誘導看板等の図面に基づき、観光課から説明された後に協議したものの。</p> <p><協議結果></p> <p>色彩等、景観に配慮されており概ね良いという意見だったが、詳細についてメンバーの意見により微調整が出たもの。それを踏まえて、誘導看板等を作成することとなった。</p>			
3 その他			
<p>「観光庁訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入地方拠点整備事業」及び「小田急箱根環境デザインガイドブック」について、事務局から説明したものの。</p> <p><内容></p> <p>観光庁訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入地方拠点整備事業の看板整備にあたっては、今後、話が進んでいく中で本会議の議題にあげて検討していきたい。</p> <p>小田急グループで統一したデザインのガイドブックの取組みを紹介したものの。</p> <p>景観への配慮、サイン統一化等の観点から、町内における先進的な事例であり、担当者からより詳しく話を聞き、公共サインガイドライン調査・研究に役立てたいとの意見もあったもの。</p>			

箱根町景観施策推進会議 第10回会議 会議録

<p>議題</p>	<p>(1) 公共サインガイドラインの素案について</p>
<p>事務局からの説明 (勝又主任主事) (竹村主事) 資料1 資料2</p>	<p>これまでの会議の結果を踏まえ、事務局が作成した「箱根町公共サインガイドライン(素案)」に基づき、事務局が前半と後半に分け説明したもの。</p>
<p>協議</p>	<p>公共交通事業者は適用除外だが、最終的には協力・連携を促していく。 「公共サインとは」の項目で、書き出しは文字や記号だけでなく、かたちや色など自然に関するものもサインだと示しているが、最終的なまとめで“人工的に設置するものを公共サイン”と示すのは矛盾しているので、表現を変えたほうが良い。 併せて、公共サインの定義の表現をわかりやすくしたほうが良い。写真やイラストなどを挿入してビジュアル的に訴えたほうが効果的ではないか。 案内看板・解説看板・誘導看板・位置看板・注意看板の5つの定義を示しているところで、それぞれ具体的な写真を掲載した方がわかりやすい。 適用除外に記載のある「屋外広告物的」の表現をもう少しわかりやすくする。 「現状と課題」については、現在作成しているものがガイドラインであるのだから、掲載内容には報告的なものは必要が無いように思う。ガイドラインの最後のほうで示し“参考資料”として出典したほうがなじむのではないだろうか。 公共サインを作成・掲出する立場としては、「サインの整備方針」以降をより具体的にし、フォントや書体などの説明を多くしたほうが、ガイドラインとして使いやすい。 基本方針を定めるにあたり、キーワードなどで見出しを設けた方が言いたいことが伝わる。 注意看板の整備方針をもう少し具体的に説明しないと、公共サインを作成する際に色彩の使用範囲の判断がしにくい。 注意看板だけのレイアウトを決めてしまっはいいかがか。 注意喚起は緊急性を要する場合もあるので、自前で作成できるよう柔軟性を持たせたほうがよい。 注意喚起は、生命、財産の保護に直結する場合もあるので、統一的な色使いや(茶色に白文字のように)景観に配慮しすぎるのは、少し無理があるのではないか。注意喚起は、赤字の方が効果的であるし、一般的である。</p>

	<p>注意看板の整備方針については、基準作りが難しいので、もう少し時間をかけて、広く意見募集を行った方がよい。</p> <p>「維持管理方針」の説明について、項目立てで説明したほうが良い。また、管理台帳の様式をガイドラインに掲載する。その際の管理番号などのルールも明確に決めておく。</p> <p>資料集にピクトグラムや書体等の表示例を載せるとよい。</p> <p>文章に対する表現（語尾の統一など）や、図の表し方などの細かな指摘をうけたもの。</p> <p>以上を踏まえ、修正したものを次回会議までに再度メンバーへ示すこととなった。</p> <p>注意看板についての方向性について、各課に会議結果を送付する際に意見照会することとなった。</p>
議題	(2) 観光課が作成するハイキングコース誘導看板等について
観光課からの説明 (斎藤主査)	誘導看板等の図面に基づき、観光課から説明されたもの。
協議	<p>書体を丸ゴシックから角ゴシックに変更する。</p> <p>公衆トイレの表示のところには、ピクトグラムを表示し分かりやすくする。</p> <p>インフォメーションマークの色を青から、黒か緑に検討する。</p> <p>その他、形状等を微調整する旨の意見等でもの。</p> <p>以上を踏まえ、誘導看板等を作成することとなったもの。</p> <p>今後は、管理番号なども記載していくようにしていく。支柱を複数の課等で使用する場合は、サインを特定できるよう管理番号の記載場所を注意する。</p>
議題	(3) その他
事務局からの説明 (竹村主事)	「観光庁訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入地方拠点整備事業」及び「小田急箱根環境デザインガイドブック」について、事務局から説明したもの。
協議	<p>「観光庁訪日外国人旅行者の受入環境整備に係る外客受入地方拠点整備事業」</p> <p>箱根町、湯河原町、熱海市の1市2町を交流圏として、自立型多言語看板を整備するため、国から“ぐるなび”に受託された事業である。現時点での構想では、1市2町エリア全体マップと各地域のマップを合わせた案内看板を設置する予定である。全体マップには、箱根から熱海、熱海から湯河原等他市町へ行く鉄道、バス等の経路情報を掲載する。箱根町の設置場所は、湯本駅前の既存の案内看板設置場所を利用することを検討している。看板の整備にあたっては、今後、話が進んでいく中で本会議の議題にあげて検討していきたい。</p>

「小田急箱根環境デザインガイドブック」

小田急グループで統一したデザインのガイドブックが作られ、町に情報提供として話があったので、取組みを紹介したもの。

会議メンバーからは、景観への配慮、サイン統一化等の観点から、町内における先進的な事例であり、担当者からより詳しく話を聞き、公共サインガイドライン調査・研究に役立てたいとの意見もあったもの。